







決 裁	議 長	局 長 等	次 長	リ-ダー	担 当	合	議
							

様式第6号（第8条関係）

令和4年8月17日

養父市議会議長 様

養父市議会議員

田路 之雄

政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告します。

記

1 活動月日

令和4年7月22日（金）～23日（土）

2 活動場所

(1) 岡山県総社市中央 1-1-1 岡山県総社市役所（第一委員会室）

(2) 岡山県総社市西郡 JA山手セロリ・メロン生産組合

3 活動目的

“全国屈指の福祉先駆都市”を目指す総社市の保健福祉政策を視察するため

4 活動内容

岡山県総社市 管外視察

・7月22日（金）13:00～15:00

「障がい者雇用と農福連携の取組について」

・7月23日（土）9:00～10:30

「ハウス栽培と若手・担い手確保について」

5 活動成果

・「障がい者雇用と農福連携の取組について」

総社市は、平成23年に「障がい者千人雇用推進条例」を制定し、障がい者千人雇用実現のための基本事項や市・企業・市民の役割を明文化した。平成29年には就労者1,000人を達成し、同年9月から「障がい者千五百人雇用」事業として継続し、令和4年の7月には就労者1,219人を達成している。

研修に先立ち、総社市長を表敬訪問し、市長より社会的弱者である障がい者に



とことん寄り添う熱意と政治家としての障がい者政策に対する持論を拝聴し感銘した。研修では、福祉課からは、障がい者雇用において、自治体のもつ障がい者支援とハローワークの就労支援との連携強化等についての説明、ハローワークとの協働として、23年7月より、ハローワーク総社の2階において「福祉就労から一般就労」に向けてワンストップで付き添い型の綿密な支援を実施している。これらの成果として、平成23年7月から令和4年3月までに市外の方を含み1,046人の障がい者が就労支援ルームを通じて就職している。

また、社協との連携強化をし、障がい者千五百人雇用センターを設置し、国の障がい者就業・生活支援センター（通称：中ポツ）と同等の機能を有することも成果の実現に寄与している。

障がい者千五百人雇用の目指すもの。それは乳幼児・就学期から、青壮年期・高齢期を通じて切れ目のない支援をし、障がい者一人ひとりが自立し、一生涯安心して地域社会で暮らせる社会の実現を図る。そのためには、全障がい者が生活の質の向上を図り、正規雇用、フルタイム雇用を増やすための課題やニーズに対して適切な支援が必要である。

また、農福連携においても、昨年より始まった農業後継者クラブを通じ、桃、ブドウ農家からの農繁期の仕事の紹介などもある。また、今回の視察で昼食したNPO法人の畑の除草作業も事業所から委託されており、市内において広く浸透している。

総社市では、就労継続支援A型事業所（雇成型）は5事業所、B型事業所（非雇成型）12事業所あり、一般就労へ移行を図る取組として、福祉的就労A型、B型から一般就労へ移行し6ヶ月以上経過した方に就労支援金10万円を支給（市独自施策）している。昨年は、15名の対象者があった。また、市が主催となり、ハローワーク総社等との共催により面接会を実施し、毎年1割～2割が雇用に繋がっている。雇用した企業経営者は、「社員が本当に一生懸命に働いて喜んでいる。障がい者への見方が一変した。」また、「職場が和やかな雰囲気になった。」との意見がある。また、総社市は、「全国屈指の福祉先駆都市」を目指しているのか人口減少がなく、むしろ人口が微増している。今回の管外視察を今後を活かしたい。

・「ハウス栽培と若手・担い手確保について」

JA山手セロリ・メロン生産組合の剣持組合長とJA担当者との意見交換を行った。同地区は、セロリの産地で約40年前に裏作としてメロン栽培をはじめた。現在6名の組合員が51アールの圃場で岡山市場を中心に7.6トンを生産・出荷している。剣持組合長は、25アールの畑に4500本のメロンの苗を植え「食べてみてみんなが笑顔になれるようなメロンを作りたい。」また、通年で安定した収入が得られるために、如何に他の仕事より魅力的なものにするかが若手・担い手確保に繋がる。JA晴れの国岡山では、Uターンなどの移住者の就農者を支援し後継者確保の取り組みをしているが、生計を立てるのが大変である。

また、行政には、助成金の情報等を速く分かりやすく流してほしい意見あり。